

地域再生計画

1 地域再生計画の名

高石市まち・ひと・しごと創生推進計画

2 地域再生計画の作成主体の名称

大阪府高石市

3 地域再生計画の区域

大阪府高石市の全域

4 地域再生計画の目標

高石市は、昭和 30 年代後半に臨海工業地帯が造成され、臨海部の企業の社宅建設や大阪中心部へのアクセスの良さなどから、ベッドタウンとして人口が急増し、昭和 60 年には、66,974 人（国勢調査）のピークを迎えました。その後は、ゆるやかな減少が続き、平成 27 年には 56,529 人となっています。

出生数は平成 11 年にピークとなっており、その後緩やかに低下しています。死亡数は年々増加傾向にあり、平成 24 年の時点で、死亡数が出生数を上回る「自然減」（平成 23 年▲54 人）に転じています。また、転出数が転入数を上回る「社会減」が続いておりましたが、平成 28 年に転入数が転出数を一時上回る「社会増」（平成 28 年 160 人）となっており、それ以降は横ばいとなっています。

今後何も対策を講じない場合、高石市においても、令和 27 年には人口が 36,807 人（国立社会保障・人口問題研究所推計より）まで減少する可能性が示されています。この場合、急激な少子高齢化により、高齢世帯の支え手が不足し、また、生産年齢人口の不足により産業の衰退の可能性が高まります。

また、高度経済成長期に建設された企業の社宅や開発住宅等は、次第に老朽化、建替えや売却が進む一方で、高齢化・核家族化、低未利用地となるケースもあります。

これらの課題に対応するため、人口減少に歯止めをかけるとともに、活発な産業をもち、住みやすいベッドタウンとしての特性をもった、活力あるまち「たかいし」を発展させることを目的として、次に掲げる 4 つの基本目標を設定し、子育て世代と高

齡世代のそれぞれに向けた施策を打ち出すとともに、二・三世代同居近居支援施策をさらに充実させるなど、世代間が相互に支えあう環境づくりを進め、活力あるまちの発展をめざすとともに、高石市で生まれ育ち、これまでの高石の発展を支えていただいた方が、充実した生活を送ることはもちろんのこと、若年世代から高齢世代まで、どのライフステージでも高石市に転入した方が充実した生活を送ることができ、たくさんの方が集い、また、住み続けたいとなる、そして生涯にわたり活躍できるような魅力のあるまちをめざします。

- ・基本目標（１） 子どもを産み育てやすい環境を整える
- ・基本目標（２） 地域が稼ぎ、働きやすい環境を整える
- ・基本目標（３） いつまでも健幸にすごせる環境を整える
- ・基本目標（４） 人が集い、住みたくなる環境を整える

【数値目標】

５－２の ①に掲げ る事業	K P I	現状値 (計画開始時点)	目標値 (2024年度)	達成に寄与する 地方版総合戦略 の基本目標
ア	出生数（年間）	489人	600人	基本目標（１）
	20歳から39歳までの転出者数（年間）	1,100人	1,000人	
イ	市内就業者数（年間）	24,691人	25,500人	基本目標（２）
	市内企業従業者数（年間）	18,889人	19,500人	
ウ	健康寿命	男性：80.31歳 女性：82.01歳	男性：82歳 女性：84歳	基本目標（３）
	医療・介護連携による連携数（年間）	96件	260件	
エ	20歳から39歳までの転入者数（年間）	1,153人	1,250人	基本目標（４）
	60歳以上の転入者数（年	203人	250人	

	間)			
--	----	--	--	--

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

5-2 のとおり。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

○ まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する
特例（内閣府）：【A2007】

① 事業の名称

高石市まち・ひと・しごと創生推進事業

ア 子どもを産み育てやすい環境を整える事業

イ 地域が稼ぎ、働きやすい環境を整える事業

ウ いつまでも健幸にすごせる環境を整える事業

エ 人が集い、住みたくなる環境を整える事業

② 事業の内容

ア 子どもを産み育てやすい環境を整える事業

現在、取り組んでいる保育サービスの量的な確保に加え、働きながら子育てをする親が子どもを預けやすい環境の整備や学童保育の充実などの子育て支援の更なる推進を実施する事業

【具体的な取組】

- ・妊娠・出産から子育て期における切れ目ない支援の充実
- ・結婚のための出会いの機会創出 等

イ 地域が稼ぎ、働きやすい環境を整える事業

市内の空き家・空きスペース等の地域資源を有効活用し、多世代での交流を促進するコミュニティスペースとして整備するだけでなく、まちに賑わいと雇用を創出するため、民間事業者が起業できるよう人材育成などの支援に取り組む事業

【具体的な取組】

- ・地域資源のリノベーション

- ・創業支援 等

ウ いつまでも健幸にすごせる環境を整える事業

スマートウェルネスシティとしてのこれまでの取り組みを踏まえつつ、今後さらに高齢化が進展しても高齢者が出かけやすいまちづくりとして、南海中央線の延伸や駅舎のバリアフリー化を進め、また、鉄道沿線の自治体で都市機能を分担・連携し、公共交通サービスや住民の利便性の維持・向上を目的とする「鉄道沿線まちづくり」も勘案しながら、都市基盤整備や公共交通の充実を図る事業

【具体的な取組】

- ・健幸づくり事業の充実
- ・高齢者も暮らしやすいまちづくりの推進 等

エ 人が集い、住みたくなる環境を整える事業

令和3年の南海本線高架化により東西が繋がる高石駅周辺エリアを、多世代交流により生活を豊かにするまちの拠点とするための一体的な整備事業等

【具体的な取組】

- ・学力向上に向けた学びの推進
- ・駅周辺リノベーション活性化事業 等

※なお、詳細は第2期高石市まち・ひと・しごと創生総合戦略のとおり。

③ 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（KPI））

4の【数値目標】に同じ。

④ 寄附の金額の目安

10,000千円（2020年度～2024年度累計）

⑤ 事業の評価の方法（PDCAサイクル）

毎年度8月頃に、高石市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定、モニタリング、見直しを行う高石市行政計画審議会に外部的な進捗管理及び評価を行い、検証後は速やかに高石市HPで公表する。

⑥ 事業実施期間

2020年4月1日から2025年3月31日まで

5－3 その他の事業

該当なし

6 計画期間

2020 年 4 月 1 日から 2025 年 3 月 31 日まで